

平成30年度 修了式 式辞

みなさん、おはようございます。 今日で、今年度の学年、そして今のクラスが最後の日となります。このクラスで1年間、テーマを決め、力を合わせ、まず授業、時に一泊移住や校外学習、時に体育大会、文化祭、百人一首大会、マラソン大会で、頑張ってきました。そして先週火曜日は合唱コンクール、それぞれの学年、クラスでとても頑張りましたね。有終の美だったなあと考えています。感動をありがとう。

さて、この学年、このクラスは今日で最後ですが、先生の世界でも今日が最後の事があります。大阪市の中学では人事異動・転勤というものがあります。本当なら転勤が決まった先生は、みなさんにしっかりと思いを伝えたいところですが、その人事異動の発令の日が、来週なんです。なので今日、どの先生が転勤なのかをお伝えする事が出来ません。修了式の後の学活で、先生の顔をしっかりと見つめて帰って下さいね。

私自身の話をします。実は私は民間校長と言って、「先生」から校長になったのではなく、「サラリーマン」から校長になったものです。そこにはルールがあって、校長の期間が最長5年間と決められています。私は中野中学校で5年間過ごさせていただきましたので、私は転勤ではなくて任期満了、大阪市の校長先生は今年でおしまいです。なので皆さんは、最後の生徒ということになります。本当にありがとう。感謝しかありません。

その感謝の気持ちを込めて、今日は私のサラリーマンの時の話をします。私は、この5年間、サラリーマンの時の話をしたことがなかったのですが、今日は最後なので。

私は35年前に22歳でリクルートという会社に入りました。今でいうと、「バイトアプリはタウンワーク」とか「住まいさがしは suumo」、「結婚情報誌のゼクシー」とかを扱っている会社です。タウンワークのライバルと思いがちな「仕事探しはインディード♪」も実はリクルートです。まあ、その会社ですが、入社式が終わったらみんなに、このプレートが渡されます。プレートには社是、(校訓のようなものですね、中野中学校だったら「希望に起き、努力に生き、感謝に眠る」です。)この会社で一番大切にすべきものを書いてあります。リクルートのそこには「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」と書いてあります。これが私の思うリクルートの全てです。なのでその話をします。

私は、子どもが二人います。しかし当時のリクルートは長時間労働が当たり前で、例えば毎週木曜日の会議は午後8時から11時くらいまでありました。なので、子どもの平日の学校の行事には出たことがなくて、15年前、娘の中学校の卒業式があった時も、やはり間に合わなくて、行ったら卒業式が終わっていました。「残念!」と思っていたのですが、先生が「今から最後のホームルームをしますのでご覧になりますか?」と言ってくれて、喜んでいきました。その時に、担任の先生が言われたことが、頭にこびりついていきます。

「しっかりと夢を持って欲しい。しかし、君たちの人格はだいたい固まっている。だから、夢を実現しようとしたら、よっぽど覚悟を持って変わらないと実現できないよ」と先生は言われました。「本当だなあ」、と感心しました。私も自分の人格の根本は、15 歳くらいには出来上がっていた気がします。これが、成人を超えて大人になった「若者」は、もう「よっぽどとんでもないことがないと変わらない・成長できない」ということを、会社員の時には、社員研修とかをしていたので、思い知りました。人は簡単には変わらないのですよ。特に大人になって頭が固くなってから余計変わりません。だから「変わろう」「成長しよう」と思えば、思い切って環境とか役目とか自分のまわりや立場を変えないと変わりません、成長できません、素敵になれません。

だから、みなさんにもこの「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉を贈ります。みんなはまだ若い、これから人格の根本を作る時です。成長するために、どんどん手を挙げて、手を上げなくても先生や先輩が用意してくれた新しい機会（チャンスですね）には積極的に挑戦してください。そういう機会を得て、成長してください。

うまくいってることは変えなくても・・・と思うかもしれませんが、しかし野球の大谷君や将棋の藤井君も、投球球種や打撃フォームや戦術を毎年変えています。変えないと次の年、同じように勝てないのです。だから、同じようにうまくいこうと思っても、必ず人間は何かを変えていかないとはいけません。そのために、「新しい何か＝機会」を創り出してください。

「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」 おすすめです。

私も 57 才ですが、なにか変るために、また新しい機会に挑戦したいと思います。

毎年、4 月 8 日の始業式、また元気な姿のみなさんと会えるのを楽しみにしています。と言ってきましたが、今年はあたらしい校長先生が、みなさんを待っています。それも皆さんにとって、新しい機会ですので、変わるチャンスです。楽しみにしててくださいね

今まで 本当にありがとう。感謝です。さようなら。

山本哲哉